

授業科目	統計学	単位	1	時間	30	履修時期	2年次 1学期
設定理由	看護の集団に対して健康上の問題の発見及び看護実践の評価を行うためには情報を科学的に分析する能力が必要である。統計学と情報処理技法を通してその力を養う。						
学習目標	統計学の基礎知識を学び、統計的な見方を身につける。						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計学入門</li> <li>2. 度数分布表とヒストグラム</li> <li>3. 基本統計量</li> <li>4. 母平均と母比率の区間推定</li> <li>5. 対応のない場合の平均値の差の検定①</li> <li>6. 対応のない場合の平均値の差の検定②</li> <li>7. 対応のある場合の平均値の差の検定①</li> <li>8. 対応のある場合の平均値の差の検定②</li> <li>9. カイ2乗検定 (適合度①)</li> <li>10. カイ2乗検定 (適合度②)</li> <li>11. カイ2乗検定 (独立性①)</li> <li>12. カイ2乗検定 (独立性②)</li> <li>13. 相関関係 (散布図・相関係数・回帰方程式)</li> <li>14. 総復習とまとめ</li> <li>15. 試験</li> </ol>					担当者 (時間)	
						非常勤講師 (30)	
評価	筆記試験、レポート						
テキスト	統計学入門 第7版 杉田 暉道、朽久保 修 医学書院						
備考	電卓・パソコン (情報科学室) を使用する。						

授業科目	論理学	単位	1	時間	15	履修時期	1年次2学期
設定理由	看護の根拠の追究・証明する力や伝達力の基礎を身につけるため、いろいろな文章の筋道の論理的な運び、言語の論理性を学ぶ。また事象を正しく証明するための推論の術、論理的・客観的・系統的に考え、判断、問題解決していく基礎的能力を養う						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論理的思考の基礎を理解し、事象の客観的・系統的な思考力、判断力を養う</li> <li>2. 事象もしくは自らの考えを的確に論理的に言語、文章により表現する能力を養う</li> </ol>						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理解・納得・共感を得るうえで重要なこと</li> <li>2. 論理と命題記号</li> <li>3. 可能世界と命題の真偽値</li> <li>4. 恒真式</li> <li>5. 推論</li> <li>6. 述語論理・練習問題</li> <li>7. 試験</li> </ol>					担当者（時間）  非常勤講師（15）	
評価	筆記試験						
テキスト							
備考							

授業科目	論文作成技法	単位	1	時間	15	履修時期	2年次 1学期
設定理由	専門職として。看護を他者に伝えるために論理学で学んだ論理的思考に基づき、文章化する技術を身につける必要がある。そのため、1つ1つの言葉を吟味しながら使い、要点を明確にする力、道筋を立てて文章全体に一貫性を持たせる力などを補う。						
学習目標	論理的思考に基づいた論文作成能力を養う。						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文章を書くという行為を俯瞰して捉える</li> <li>2. 論理的思考について（1）新聞の投書から</li> <li>3. 論理的思考について（2）意見文を書くための方法</li> <li>4. 論文作成演習（1）自分の意見を述べる</li> <li>5. 問いを立てる方法</li> <li>6. 問いを吟味する方法</li> <li>7. 論文作成演習（2）自分の問いを解決する</li> <li>8. 試験</li> </ol>					担当者（時間）  非常勤講師（30）	
評価	レポート試験（詳細は講義時に説明）						
テキスト	講師作成資料						
備考	課題レポートあり						

授業科目	哲学	単位	1	時間	15	履修時期	1年次2学期
設定理由	通常当たり前と思っている事柄「当然のこと」としてあまり深く考えず済ましている事柄に対して、徹底的に「なぜ」と問いかけることの必要性を通し、自分自身についての理解を深めていく						
学習目標	日常生活や（やがて身を置くことになる）職業実践の場で「自らが受け入れている道德原則間の衝突」に遭遇する可能性があることを理解するとともに、そうした衝突を解決することの困難さや悩ましさを了解するのが目標です						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 哲学とはどのような営みか／道德と倫理の違い</li> <li>2. 帰結主義と非帰結主義／功利主義</li> <li>3. 哲学的思考を体験する（その1）語の定義に関する問い</li> <li>4. 哲学的思考を体験する（その2）行為の是非に関する問い</li> <li>5. 「嘘をつく」とはどのようなことか？</li> <li>6. 嘘をつくことの是非について</li> <li>7. 職業の現場で嘘をつくこと、そして日常生活において嘘をつくこと</li> <li>8. 試験</li> </ol>					担当者（時間）  非常勤講師（15）	
評価	最後に筆記試験をおこないます それとは別に、授業時の自発的発言は高く評価します						
テキスト	講師が作成した資料を配付します						
備考							



授業科目	文学	単位	1	時間	15	履修時期	2年次 2学期
設定理由	自己の感性を高める創造力を養うことで、看護の対象である人間の理解の幅を広げる。						
学習目標	自己の感性を高め、創造力を養う。 書く・話す・聞く・読むことを通してあるがままに自己表現する。						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物語を想像する</li> <li>2. 物語を解析するための方略を使う</li> <li>3. 言葉の力に着目する (短歌)</li> <li>4. 言葉の力に着目する (非文学)</li> <li>5. 物語の文法について学ぶ (1) 昔話を題材として</li> <li>6. 物語の文法について学ぶ (2) 物語遊びを題材として</li> <li>7. 物語作成演習</li> <li>8. 試験</li> </ol>					担当者 (時間)	非常勤講師 (15)
評価	レポート試験 (詳細は講義時に説明)						
テキスト	講師作成資料						
備考							

授業科目	人間関係論	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1学期・2学期
設定理由	看護は、人と人との関わりの中で実現される。そのためには人間関係を理解し、自他の関わり体験を通してどのように関係作りをしていくのか、どのような関わりの時に変容がもたらされるかを学習し、看護するということの基盤をつくる						
学習目標	実際の対人関係の体験から、自己の心の動き、他者の理解を深めていく						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己と他者との人間関係</li> <li>2. コミュニケーション</li> <li>3. 私の魅力発見</li> <li>4. ポスター作製</li> <li>5. 私の魅力ポスター発表</li> <li>6. 相互理解チェックシート</li> <li>7. 相手を活かし私も生かす win-win コミュニケーション</li> <li>8. 私が目指すこと</li> <li>9. ネガティブバイアス</li> <li>10. エコグラム</li> <li>11. コミュニケーション 情報を得るためには</li> <li>12. ストローク 完全主義について</li> <li>13. 仮面的交流</li> <li>14. ひとりゲーム</li> <li>15. ミニ脚本について</li> <li>16. 試験</li> </ol>					担当者（時間）  非常勤講師（30）	
評価	筆記試験（レポート）						
テキスト	看護の中の看護活動 中巻（HATO 書房）						
備考	集中講義 前半：4月宿泊研修(緑水園) 後半：1月学内講義						

授業科目	心理学	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1学期
設定理由	人間を全体的に理解するために行動科学と人間科学としての心理学を理解し、さらに人の行動に対する心理学的な見解ができる						
学習目標	人間の心と行動の関係が理解できる						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学とは 心理学の歴史・心理学の方法</li> <li>2. 知覚 感覚と知覚</li> <li>3. 図と地・錯視・いろいろな知覚</li> <li>4. 記憶</li> <li>5. 学習</li> <li>6. 感情・動機づけ</li> <li>7. 性格と性格の測定法</li> <li>8. 社会と集団</li> <li>9. 発達－乳幼児から青年期</li> <li>10. 発達－成人・高齢者</li> <li>11. 心理療法</li> <li>12. ストレス・マネジメント</li> <li>13. 医療・看護と心理</li> <li>14. 対人援助職のためのセルフケア</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol>					担当者（時間）  非常勤講師(30)	
評価	定期試験・レポート・出席状況による総合評価						
テキスト	基礎分野 心理学 (医学書院)						
備考	講義を中心にグループワークなどを取り入れ、毎回講義後に小レポートを課す。						

授業科目	倫理学	単位	1	時間	15	履修時期	1年次2学期
設定理由	人間は、生きる権利、尊厳を保つ権利、敬意のこもった看護を受ける権利、平等な看護を受ける権利などを有する。医療現場でこれらの権利が遵守されるよう、看護学生として倫理の基礎を学び、倫理的諸問題に目を向ける姿勢を涵養する。						
学習目標	現在、医療現場における倫理をめぐって、どのようなことが問題となり、議論されているのかについての基本的な知識を得るとともに、倫理的問題を見つめるセンスを身につけ、将来医療者として直面するであろう倫理的ジレンマを冷静に受け止め、その解決への道を探るための倫理的思考力を身につける。						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理・倫理学とは何か？</li> <li>2. インフォームド・コンセントと患者の自己決定権 (1)</li> <li>3. インフォームド・コンセントと患者の自己決定権 (2)</li> <li>4. インフォームド・コンセントと患者の自己決定権 (3)</li> <li>5. インフォームド・コンセントにおける看護師の役割</li> <li>6. 守秘義務と個人情報保護 (1)</li> <li>7. 守秘義務と個人情報保護 (2)</li> <li>8. 病院での実習と倫理 (「看護学生らしさ」とは何か?)</li> <li>9. 医療技術の進歩と倫理—新型出生前診断 (1)</li> <li>10. 医療技術の進歩と倫理—新型出生前診断 (2)</li> <li>11. 医療技術の進歩と倫理—遺伝子検査 (1)</li> <li>12. 医療技術の進歩と倫理—遺伝子検査 (2)</li> <li>13. 脳死と臓器移植 (1)</li> <li>14. 脳死と臓器移植 (2)</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol>						担当者 (時間)
							非常勤講師 (30)
評価	レポート試験						
テキスト	講師作成資料						
備考	2年次履修科目 看護倫理						

授業科目	社会学	単位	1	時間	15	履修時期	2年次 1学期
設定理由	社会的存在としての人間を理解する。日常生活のなかで「あたりまえ」だと思っていることは、ほんとうにそうなのか、この授業を通じて新たな視点を身につける。						
学習目標	社会的な存在としての人間の意義と行動を理解する。						
授業内容 (講義ことの内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の集合体としての社会</li> <li>2. あたりまえってなんだろう?</li> <li>3. 身体を社会学する 1</li> <li>4. 身体を社会学する 2</li> <li>5. 感情を社会学する</li> <li>6. ジェンダーという視点</li> <li>7. 社会学的視点</li> <li>8. 試験</li> </ol>					担当者(時間)          非常勤講師(15)	
評価	筆記試験 90%・平常点 10%						
テキスト	講師作成資料						
備考	<p>参考図書として、いずれも医療の問題と重なりあう点が多く、また読み物としてもおもしろい本を挙げました。看護師を目指す皆さんにはぜひ読んでほしい本です。事前に読むようにしてください。なお、授業内容については、必要に応じて変更する場合があります。</p> <p>中島さおり著 『パリの女は産んでいる』 ポプラ社、2005年</p> <p>渡辺一史著 『こんな夜更けにバナナかよ』 北海道新聞社、2003年 講談社ノンフィクション賞受賞</p> <p>大野更紗著 『困っているひと』 ポプラ社、2010年</p> <p>A.R.ホックシールド著、石川准ほか訳 『管理される心』 世界思想社、2000年</p>						





授業科目	保健体育	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1学期
設定理由	看護の実践者として心身共に健康であることが重要である。心身のリフレッシュおよび自己の体力づくりのために体育の意義を学び体育実技を行い、生涯スポーツの指導的知識を得る						
学習目標	健全な生活を創造するための体育の意義を理解するとともに、体力を增強し、健全な身体の発達を図り、生涯スポーツへの理解を得る						
授業内容 (講義ごとの内容)	1～15 ・バレーボール ・バトミントン ・ソフトボール 等  内、実技試験含む					担当者(時間)  非常勤講師(30)	
評価	出席、参加状況および実技						
テキスト	なし						
備考	運動のできる服装で行う。 5階講堂または王子製紙グラウンドなど講師の指示による場所で行う						